

## 上新電機オーディオ試聴会 (2017.9.3)

### —ESOTERIC 試聴会—

#### 1. はじめに

上新電機日本橋 1 番館で開催されたタンノイと ESOTERIC の試聴会に行ってきました。

#### 2. 使用機器

事前アナウンスでは、タンノイのスピーカーは Cheviot が使用される予定でしたが、入荷が間に合わないということで、代わりに Kensington が使用され、主に ESOTERIC の新しい[フォノイコライザー E-02](#)を試聴するというプログラムに代わっていました。また、販売店からの要望ということで、ソウルノートの[フォノイコライザー E1](#)も比較のために使用されました。

アナログプレイヤーは Lux の PD-171A、カートリッジは ESOTERIC 取り扱いのバندنフルの VDH-FLOG、アンプは ESOTERIC の F-03 が使用されました。



ESOTERIC E-02



当日のセッティング

### 3. 試聴会の進行

前半はソウルノートのフォノイコライザーE1で、後半はESOTERICのフォノイコライザーE-02で試聴が進められました。両者の設計思想は非常に良く似ていますが、価格差は3倍あります。

最初にカーペンターズとジャズがかかりましたが、ライブ感や音の太さなどは水準程度という感じです。

次に、フォノケーブルをバンデンフルの銀コート5ピンバランスケーブルに替えた効果をみるということで、ワーグナーがかかりましたが、オーケストラの音の分離と明晰さが向上しました。さらにESOTERICの高価格の電源ケーブルをソウルノートのフォノイコライザーE1に使用するとどうなるかということで、ファリヤの三角帽子で比較すると、押し出し感や立体的な音場感が向上しました。

ここで、ESOTERICのフォノイコライザーE-02に交換したところ、音の分離と質感、立体的な音場感がさらに向上し、価格差だけのことはあります。E-02はカートリッジの消磁機能もあるということで、その効果を確認しましたが、若干音の明晰さが向上したように感じました。

ここまではフォノイコライザーの受けのインピーダンスはE1に合わせて300オームに設定していましたが、100オームに下げようということで、その違いを聴きましたが、どちらかというとなげた方が全体のバランスが良いようです。

次に、Kensingtonの上にタンノイのスーパーツイーターを加えた効果をボーカルのグループで聴きましたが、この効果は大きく、歌のニュアンスが良くできるようになりました。

再び、クラシックに戻って、ロンドンシンフォニーのベルリオーズのレクイエムとNYフィルのチャイコフスキーを聴きましたが、前者では大編成ものの音や声の分離と協和が素晴らしく、Kensingtonクラスでここまでスケール感がでるのかという印象です。後者では楽器の質感が良くでていました。

最後に、ジャズとサイモンとガーファンクルで締めくくられましたが、ジャズのベースのアルコとピチカートの質感が十分に出ていました。

### 4. まとめ

E-02は、基本性能に加えて、バランス駆動、インピーダンスの受けの調整、消磁機能などもあり、高価格商品だけのパフォーマンスは確認できました。高価格のケーブルの追加、スーパーツイーターの追加などがありましたが、大編成オーケストラをKensingtonクラスのスピーカーでここまで鳴らしきるとは予想していませんでした。

以上

